



NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

No.74

2026.1.15 発行人 飯田 慶雄 発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10 新宿スカイプラザ1302 TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089 https://www.toukenkumiai.com/

第74号編集担当 赤荻 稔 飯田 慶雄 伊波 賢一 大西 康一 大平 岳子 嶋田 伸夫 清水 儀孝 生野 正 新堀 孝道 土子 民夫 網取 謙一 土肥 豊久 服部 暁治 深海 信彦 松本 義行 冥賀 亮典 持田 具宏 吉井 唯夫

第37回「大刀剣市」を開催

■三十七回目となる「大刀剣市2025」は去る十一月一日(土)・二日(日)の両日、東京新橋の東京美術倶楽部において開催された。好天にも恵まれ、初日一四八名、二日目八四七名と多くの来場を記録した。

想定以上の成果に感謝
今年も十月三十一日の搬入から十一月一・二日の開催と、嵐のような三日間が過ぎてゆきました。

この日を迎える前に残念なことがありました。理事の持田具宏氏が病に倒れ、もちだ美術が寸前不参加となったのです。本人はリハビリに励み、最後まで参加に向けて用意をしておりました。事前説明会には、奥さまが不慣れな様子で東京美術倶楽部まで足を運ばれましたが、医師からの許可が得られなかったのです。

特に初日、スタートの混乱は毎年の悩みでしたが、川口さんとベテランガードマンのEさんがアイデアを出し合って入場整理に活躍してくれ、混乱を避けることができました。
入場者数はここ数年弱含みとなり、尾根から下り坂へ転じる懸念がありました。今年も両日とも昨年を上回る入場者数を記録。雨とされていた天気も初日の早朝から回復し、日が差してきました。



「種の保存法」遵守の徹底について

—違反者は検挙される—

絶滅の恐れのある野生動物の種の保存に関する法律(いわゆる「種の保存法」)が施行され、象牙製品の扱いには「特別国際種事業者」として登録が必要となったことは以前本紙でも紹介された通りです。

この度、経済産業省製造産業局および環境省自然環境局より、法令遵守徹底について再確認の依頼と、同法違反により警視庁に検挙された事案があったことが昨年十月、同事業者へ郵送で報告されました。

検挙については、「不正競争防止法違反(象牙製品の誤認惹起行為)および「種の保存法」違反(全形を保持していない象牙の管理票作成義務違反)の疑いで逮捕、書類送致された」と警視庁より公表されました。

象牙製品を「象牙風・マンモス」等と虚偽の表示をして販売、さらに管理表を作成しなかった疑いも認められた、とあります(経済産業省発行文書より。詳細は警視庁)。

刀剣商が全形牙を扱うことはめったにないと思いますが、象牙製品・カットピース(象牙部品)は扱う機会もあるかと思えます。台帳記載義務に加え毎年の報告義務も必要です。対象物件について確認をしておくことをお勧めします。

また近年、登録更新時期を迎える事業者もあるかと思いますので、更新をお忘れなく。同法を遵守し、協力していくことが求められています。

撮影/眞賀明子

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
(株) 日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

大阪刀剣会
吉井唯夫
大阪市中央区日本橋二丁目一
TEL 〇六-六六三-一一二一〇
FAX 〇六-六六四-一五四六四

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 **飯田高遠堂**
代表取締役 飯田慶雄
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
<http://www.iidakoendo.com>

アオバ企画(株)
高橋一
〒130-0012
墨田区大平四一九二-一三〇八
TEL 〇三-三六二-一一三三
FAX 〇三-三六二-一一三三
メール aobakk@pj8.so-net.ne.jp

日本刀の
江戸屋
名品・名刀を販売
店主 **小暮昇一**
〒529-1315
滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-11
TEL 0749-421-2736
携帯 090-3162-7641
<http://www.goushuya-nihontou.com>

刀 剣 界

「大刀剣市」の開催と 当組合の社会的責任

今年で三十七回目を迎えた「大刀剣市」は、今では日本最大規模の刀剣イベントとして、世界中に知られるようになりました。

今年も、会場には武家文化を代表する品々が幅広く展示され、実際に手に取って鑑賞できる貴重な機会となりました。

インターネットでの取引が広がる今日でも、多くの人々にとって魅力的な場であり、大刀剣市を通じて、組合員の経済活動の促進、刀剣・武具類などへ一般市民の関心の向上、新たな愛好者の開拓などが見られ、刀剣文化を国内外に発信する重要な組合事業の一つともなっています。

一方、刀剣組合は政府認可の団体であるため、信用の維持が最優先事項でもあります。

そのため、共同販売事業において万一事故や不祥事が発生した場合、社会的責任は重大であり、マ

スコミ等から厳しい批判を受け、その情報はSNSなどを通じて即座に拡散される可能性があります。

コロナ禍の際は、一般では開催されていた催事も、当組合は公益性を有する団体であるため、理事会において慎重に検討し、大刀剣市の開催を中止しました。

年々、銃砲等の取り扱い方の規制も強化されることなどを踏まえて、今後の事業運営の在り方について、開催方法の見直しも視野に入れなければならない時期にきています。常に進化を求められる本事業も、主催としての組合名義ではなく、後援・監修等へ移行し「政府認可組合が主催する即売会」という構図を段階的に緩めることも重要かと思えます。

組合の諸先輩方の力により構築され、世界中に名の知れた大刀剣市において、事故などの問題が発

生すれば、即座に主催者である組合が重い社会的責任を問われ、当面の間、共同即売会の開催を見合わせるという重大な発表をしなければならぬ事態になるかもしれません。

多くの組合員より共同販売事業の開催を求められても、それに応えることができません。政府認可の組織がその責任を曖昧にして、自覚ない事業運営を行えば、組合は信用を失い、刀剣社会そのものを損なう恐れもあります。

今後、若い組合員の社会的地位のさらなる向上のためにも、刀剣文化の保護団体としての立場を崩さないためにも、組合の信用を守らなければならないと思います。

大刀剣市を継続し、刀剣文化を広めてゆく責任においては、問題の大小にかかわらず、「これまで問題がなかった」という理由だけの継続に終止符を打ち、組合員の居城である組合を守ることを最優先することを、全組合員で共有する時期にきていると思います。
(嶋田伸夫)

「大刀剣市」出店者事前説明会を開催

十一月八日、「大刀剣市」出店者事前説明会が東京美術倶楽部で開催されました。

当日は告知した時間の変更がありました。ほぼ全出店者が参加。出店者の認識を深めるべく、まず綱取譲一実行委員長が大刀剣市規約を読み上げ、実行委員と二階に説明を行いました。特に、組合によるクレジットカードの取り扱い中止の変更点や、前日搬入の手伝い・アルバイトの名札着用の徹底、陳列後は他の出店者との商談などを行わず退館することなどの留意事項が伝えられました。

質疑応答では、古式銃の陳列は火縄銃のみによることや、遠方からの出席は負担であるが、一堂に会して顔を合わせワンチームになるために必要、などのやりとりがありました。

北海道と九州からの出席は経済的な負担が特に重いの、後日、直接意見を伺うと、「大変ではあるが、実行委員はもっと大変なので、それに比べれば異論はない」「実行委員が準備してくれるので感謝しかない、頼りにしている」と、実行委員の苦勞が報われるコメントを頂けました。

事故を起こさず、盛況な商売を願う大刀剣市実行委員の気持ちを出店者みんなが共有していると感じました。(松本義行)



「大刀剣市」に初出店して

(株)シカゴレジメンタルス 宮崎昌幸

古式銃砲を専門に取り扱わせていただいている株シカゴレジメンタルスの宮崎でございます。この度は「大刀剣市」に出店させていただき、誠にありがとうございます。

私にとって大刀剣市に出店することは念願であり、やっと「武具業界の登龍門」に立つことができたと感じています。

これまで昔からお付き合いのあるお店のお手伝いとして大刀剣市に顔を出させていたのですが、自分のアースを持つことになるとその責任の重さが違いました。

特に同じ武具商でも、古式銃砲という分野の専門店として恥ずかしくない展示と接客を心掛けなければならぬという緊張感がありました。

ビジネス・マナーをはじめとして、国宝・重要文化財に指定されるお品を扱われている「日本を代表する美術品商」の皆さまから学ぶことが多々ございました。

日本独自に発展し、日本の歴史を大きく変えた火縄銃ですが、まだまだ美術品としての評価は低く重要文化財に指定されている火縄銃は数挺のみです。

私は将来的に古式銃砲が美術品として高く評価されるのを待つのではなく、古式銃砲を扱う者の責務として評価につながる努力をしなければならぬと考えています。

そのためにも「日本の伝統文化の頂点である日本刀」を扱う皆さまを大いに見習いたいと願っており、大刀剣市への出店により皆さまの仲間入りを果たせたことを光榮に思います。

刀剣商ではない、少し違った商品を扱う私が、今回この大刀剣市に参加できたのも、市場でお世話になった皆さまから信頼を頂いた賜物と信じています。

また、店名の「シカゴ」でお気付きの方もおられまじょうが、私は一九八〇〜九〇年頃頭にかけて十年以上米国のシカゴに住んでおり、全米を回り、日本刀をはじめとする進駐軍が米国に持ち帰った品物を集めては「シカゴ刀剣ショー」などで販売していました。

今回、今回の出店はそのころからお世話になっている大御所の方々からのご支援あってのことと思います。

私は昔から人とは違う商いをしており、どこの業界にも属することがない一匹狼的な生き方をしておりました。しかし、選歴前に新人として刀剣市場に顔を出すようになり、人とのつながりの大切さを教えていただき、また組合に入会させていただいてからは組合員として「一人ではなく共同体として」商いをさせていただける機会を得、その大切さに気付くことができました。

さらに大刀剣市でそれぞれ個性を発揮する商いの方法があることを学んだことにより、「次はこのようにしよう、あのようしよう」というアイデアが次々に湧いてまいりました。

この素晴らしい機会である大刀剣市出店のご承認をくださいました理事長、理事の皆さまに御礼を申し上げますとともに、世界規模のイベントを運営されている実行委員会の皆さまの多大な努力、そして初出店の若葉マークの私に対してのお心遣いに誠に頭の下がる思いでございます。

海外で会うコレクターや業者さんから「次は、大刀剣市で会おう！」と堂々と語るようになってきたことが私の誇りになりました。ちょっと変わった商品を扱う(ちょっと変わった)人間ですが、これからもどうぞよろしくお願いたします。今回、大刀剣市に出店させていただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。



「くろがねの美」をアピールする好機として

全日本刀匠会関東支部代表 山下浩郎

第三十七回「大刀剣市」において、全国刀匠商業協同組合様、有志の方々のご厚意により、全日本刀匠会関東支部の出店が無事に終了しましたことを、お礼かたがた

ご報告申し上げます。

今年度より関東支部代表になりました、山下浩郎と申します。

私と大刀剣市との関わりは、短刀小品展以来三十年ぐらいいな

ます。長いことお世話になっております。これから数年間は支部の代表としてよろしくお願いたします。

さて、近年の大刀剣市の会場を見ますと、海外のお客さまを多く

見ますと、海外のお客さまを多く

次ページに続く

銀座日本刀ミュージアム
泰文堂
〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16
岩月ビル2階
株銀泰文堂 代表 川島貴敏
TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367
<http://www.taibundo.com>

日本刀・刀装具
販売・買取
創業42年
株式会社 美術刀剣 松本
代表取締役 松本義行
Tel.03-6456-0889
東京西葛西店/東京都江戸川区西葛西6丁目13-14丸清ビル3F
刀剣松本 構築

刀剣・書画・骨董
和敬堂
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください！
連絡先 090-8845-2222
代表者 高島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀剣・書画・骨董
和敬堂
土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
<http://wakeidou.com/>

刀買取委託
e-sword
〒350-1115 埼玉県川越市野田町1-4-19 1F
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407
刀通販サイト
www.e-sword.jp
日本刀 イーソード 検索
mail:info@e-sword.jp
イーソード
株式会社 e-sword 平子誠之

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。



組合交換会風景

待が持てます。ち寄り品も高額売却の期者が多ければ、組合員持いかと思われま。参加にに参加する組合員も多買取りのうぶ品を自当のようです。また、組合

後者の組合員が多く参加するの、組合交換会に顔を含ませる組合員もかなりいますが、そもそも交換会での取り引きにビジネスの主軸を置かない組合員も多いかと思

飯田慶雄理事長体制の元、五月と十二月の年二回開催になった組合交換会は、半年ぶりに会う組合

東京圏だけでも毎月十回以上の交換会が開催され、多くの交換会に出席して頻繁に顔を合わせる組合員も

組合交換会を開催

私の周囲でも世代交代が静かに進行していて、愛刀を手放すとか親戚の刀を処分したいといった相談を受けることが増えました。数年前のブチ刀剣ブームも一段落ついて、刀に興味のある人も減少し

時々地域の公民館とかで一般の方々に日本刀鑑賞会とかのお手伝いをさせてもらうと、多くの人が一度も刀を手持ったことがないことを知らされます。刀が身近に

見かけるようになりまし。各階のブースでも英語表記を見ますし、英会話が堪能な店員さんも少なくないよう。海外でも日本ブームというか、日本刀のコレクターが増してきたということなの

たように見受けま。今やパソコンや映像の機器の普及で、手に持たなくても刀を見ることができま。最近の、ものを持たないという考えもあって、実際の刀を所有することも少なくなってきたのでは

あるということ、レアケースになってるの。そういう鑑賞会に出かけてくような人たちなら、少しは刀剣に関する恐怖はやや緩和されてい

公的機関等からの紹介で組合に所有刀剣の行く末を託す方は、この刀が先行きどうなるか気にされま。まさか「市場で処分します」とは言えず「全国から参加する組合員六十名ほどによってオークションを開催し、最高額落札者に

当日は、組合売り物にどうしても注目が集まりがちになるので、組合員持参品を優先に競り、最後に組合買い取り品の競りを行います。今回は、(公財)日本美術刀剣保存協会の放出品が半数を占め

刀だけでなく怖くない小物も作って、くろがねの面白さから馴染んでもらうように仕掛けています。刀の正しい市民権が得られるよ

やはり刀剣の世界を知ってもらう、理解していただくには、まだ相当な時間がかかりそうです。それらが悪く言われるのは、私たちがこの業界に身を置く者の努力不足のせいです。



全日本刀匠会のブースで接客する刀匠

一番思い出す組合交換会は、超高額落札でなく、三年前の酷暑の七月、組合員による組合交換会への売却委託です。店に大量の

交換会当日は東京美術倶楽部一階の広い会場が、隅から隅まで大量の品物で埋め尽くされました。超高額品はありませんが、来場した組合員が、「何だ、これは」と驚いていた様子を思い出しま

返礼品は、人間国宝・宮入行平刀匠の弟子で、作刀歴四十年以上に及ぶ同地在住、渡辺惟平刀匠の

入魂の一作。単なる美術品にとどまらず、趣旨に即して所有する喜びと責任が深く感じられるよう、万全の態勢で提供される。

生活文化には、京料理や伝統的洒造り、書道、華道などが含まれる。今後、文化審議会が具体的な議論を進めることから、来年度中にも生活文化の人間国宝が誕生する見通しである。

- ### 組合こよみ (令和7年10~12月)
- 10月5日 生野理事と吉井理事が刀剣評価査定のため京都市左京区へ出張
 - 8日 東京美術倶楽部において第39期第3回理事会を開催。出席者、飯田理事長・清水副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・伊波専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・大西理事・大平理事・生野理事・新堀理事・深海理事・松本理事・冥賀理事・吉井理事
 - 8日 東京美術倶楽部において大刀剣市事前説明会を開催。出席者66名
 - 27日 飯田理事長・清水副理事長・嶋田常務理事が刀剣評価査定のため日本美術刀剣保存協会を訪問
 - 11月1日 大刀剣市開催。入場者数1148名
 - 2日 大刀剣市開催。入場者数847名
 - 12日 東京美術倶楽部において第39期第4回理事会を開催。出席者、飯田理事長・土肥副理事長・服部副理事長・伊波専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・大西理事・大平理事・生野理事・新堀理事・深海理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・土肥監事
 - 17日 飯田理事長と松本理事が事務局において刀剣評価査定
 - 25日 飯田理事長・伊波専務理事・嶋田常務理事が刀剣評価査定のため日本美術刀剣保存協会を訪問
 - 26日 服部副理事長が事務局において刀剣評価査定
 - 27日 清水副理事長と服部副理事長が事務局において刀剣評価査定
 - 12月11日 清水副理事長と服部副理事長が事務局において刀剣評価査定
 - 12日 東京美術倶楽部において「やさしいかな」編集委員会を開催。出席者、飯田理事長・土肥副理事長・服部副理事長・伊波専務理事・綱取常務理事・赤荻理事・大西理事・大平理事・生野理事・新堀理事・深海理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・齋藤監事・土肥監事・冥賀吉也氏・土子民夫氏
 - 17日 東京美術倶楽部において交換会を開催。参加者64名、出来高25,754,300円
 - 17日 東京美術倶楽部において「刀剣界」第74号編集委員会を開催(初校)。出席者、飯田理事長・土肥副理事長・服部副理事長・伊波専務理事・綱取常務理事・赤荻理事・大西理事・大平理事・生野理事・新堀理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・冥賀吉也氏・土子氏

北海道伊達市は、ふるさと納税の新たな返礼品として「お守り刀」(短刀)の提供を、楽天ふるさと納税・ふるさとチョイスで十二月十八日から開始した。

返礼品は、人間国宝・宮入行平刀匠の弟子で、作刀歴四十年以上に及ぶ同地在住、渡辺惟平刀匠の

入魂の一作。単なる美術品にとどまらず、趣旨に即して所有する喜びと責任が深く感じられるよう、万全の態勢で提供される。

ポイントは、一から鍛え上げる完全受注生産品であること。サイズも刃長五寸六分/八寸/一尺から指定することができる。世界に

お守り刀が返礼品として選べる寄付金額は、二〇〇〜三〇〇万円。伊達市は、渡辺刀匠によるこの美術刀剣を返礼品とする事で、日本の伝統工芸の文化的価値を全国に発信し、寄付者に本物の美術品を所有する機会を提供したいという。

NEWS & TOPICS

渡辺惟平刀匠の「お守り刀」がふるさと納税に登場!

北海道伊達市は、ふるさと納税の新たな返礼品として「お守り刀」(短刀)の提供を、楽天ふるさと納税・ふるさとチョイスで十二月十八日から開始した。

入魂の一作。単なる美術品にとどまらず、趣旨に即して所有する喜びと責任が深く感じられるよう、万全の態勢で提供される。

ポイントは、一から鍛え上げる完全受注生産品であること。サイズも刃長五寸六分/八寸/一尺から指定することができる。世界に

NEWS & TOPICS

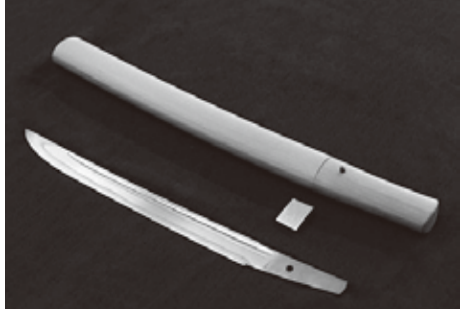
「人間国宝」認定枠が生活文化にも拡大

政府は去る十二月二十四日、国の重要文化財に新たに追加された「生活文化」の分野から、「人間国宝」(重要無形文化財保持者)を最多で十人認定することを決めた。現在百十六人の人間国宝の認定枠を拡大し、百二十八人とする。

松本洋平文部科学相と片山さつき財務相がこの日に折衝し、二〇二六年度当初予算案で百二十六人の助成金に当たる関連経費二億五千二百万円を計上することで合意した。

生活文化には、京料理や伝統的洒造り、書道、華道などが含まれる。今後、文化審議会が具体的な議論を進めることから、来年度中にも生活文化の人間国宝が誕生する見通しである。

これまで対象となる分野は歌舞伎などの「芸能」と陶芸・刀剣研摩などの「工芸技術」に限られていたが、昨年十月に文化審議会が重要無形文化財の対象に生活文化を追加するよう答申。先月十六日に告示された。



返礼品は渡辺惟平刀匠作の短刀

〈お詫びと訂正〉 本紙第73号の公益財団法人日本美術刀剣保存協会主催、2025年度「現代刀職展」表彰式の記事中、掲示した審査結果において、研磨鑄造の部が欠落していました。関係者の皆さまにお詫びし、あらためてすべての審査結果を掲載します。

2025年度「現代刀職展」審査結果

〈作刀の部〉

部門	賞	氏名		
作刀の部	無鑑査出品	月山 清		
		上林 勇二		
		河内 道雄		
		吉川 三男		
		宮入 法廣		
		松田 周二		
		久保 善博		
		高見 一良		
		太刀・刀・脇指・薙刀・槍の部	高松宮記念賞	木村 光宏
			薫山賞	森國 利文
			寒山賞	小宮 治氣
			公益財団法人日本美術刀剣保存協会会長賞一席	金田 達吉
			公益財団法人日本美術刀剣保存協会会長賞二席	高橋 祐哉
			優秀賞一席	雷岡 慶一郎
			優秀賞二席	月山 一郎
			努力賞一席・新人賞	ジョハン・ロイトヴィラー
			努力賞二席	曾根 寛
努力賞三席	赤松 伸咲			
努力賞四席	森 光秀			
努力賞五席	小宮 早陽光			
入選一席	吉田 政也			
入選二席	安藤 祐介			
入選三席	北川 哲士			
入選四席	加藤 政也			
入選五席	平 泰明			
入選六席	宮城 朋幸			
入選七席	川島 一城			
入選八席	小宮 安氣光			
入選九席	田中 諭			
入選十席	藤村 惠當			
入選（以下五十音順）	菊地 伸拓			
	栗谷 文治			
	小池 邦宏			
	新名 公明			
	松田 周平			
	宮下 輝			
短刀・剣の部	薫山賞		木村 光宏	
	寒山賞		高橋 祐哉	
	公益財団法人日本美術刀剣保存協会会長賞		加藤 政也	
	優秀賞		金田 達吉	
	努力賞一席		渡辺 徹	
	努力賞二席	松川 隆		
	努力賞三席	安藤 祐介		
	入選一席	小宮 治氣		
	入選二席	森 光秀		
	入選三席	吉田 政也		
	入選四席	伊藤 重光		
	入選五席	藤村 惠當		
	入選六席	小池 邦宏		

〈研磨・刀身彫・彫金・外装の部〉

部門	賞	氏名		
研磨の部	無鑑査出品	高岩 節夫		
		柳川 清次		
		齊藤 光透		
		河本 光誠		
		白木 良彦		
		熊井 光徹		
		杉原 宗都		
		是澤 光昌		
		松村 壮太郎		
		彫金の部	無鑑査出品	玉岡 俊行
		柄前の部	無鑑査出品	久保 純一
		白銀の部	無鑑査出品	宮本 恒之
		研磨鑄造の部	文部科学大臣賞	各務 弦太
			木屋賞	井上 聡
竹屋賞	玉置 城二			
千葉賞	川上 陽一郎			
薫山賞	三浦 弘貴			
寒山賞	大門 健士郎			
公益財団法人日本美術刀剣保存協会会長賞	松尾 清健			
優秀賞一席	真津 仁彰			
優秀賞二席	水田 吉政			
優秀賞三席	小川 和比古			
努力賞一席	長岡 靖昌			
努力賞二席	菊池 真修			
努力賞三席	阿部 聡一郎			
努力賞四席	小宮 光敏			
努力賞五席	ヘンドリック・リンデラウフ			
努力賞六席	柏木 良			
努力賞七席	枝松 孝治			
努力賞八席	関山 和進			
努力賞九席	森井 鐵太郎			
努力賞十席	アンドリュウ・イクリンガル			
入選一席	細村 正勝			
入選二席	阿部 義貞			
入選三席	横山 智庸			
入選四席	神山 貴恵			
入選五席	平井 隆守			
入選六席	多田 芳徳			
入選七席	倉田 竜太郎			
入選八席	相良 雄一			
入選九席	國上 涼			
入選十席	櫻井 亮明			
入選（以下五十音順）	秋田 勇喜			
	岩政 銅輝			
	沖島 大喜			

研磨平造の部	薫山賞	玉置 城二	
	寒山賞	倉田 竜太郎	
	公益財団法人日本美術刀剣保存協会会長賞一席	柏木 良	
	公益財団法人日本美術刀剣保存協会会長賞二席	菊池 真修	
	優秀賞一席	枝松 孝治	
	優秀賞二席	神山 貴恵	
	優秀賞三席	大門 健士郎	
	優秀賞四席	三浦 弘貴	
	優秀賞五席	松尾 清健	
	努力賞一席	森井 鐵太郎	
	努力賞二席	多田 芳徳	
	努力賞三席	ヘンドリック・リンデラウフ	
	努力賞四席	細村 正勝	
	入選一席	山下 千穂	
	入選二席	平井 隆守	
	入選三席	坂上 梓	
	入選四席	曾我 文磨	
	入選五席	横山 智庸	
	入選六席	櫻井 亮明	
	入選七席	阿部 義貞	
入選八席	井口 正規		
入選九席	中本 淳一		
入選十席	大山 幸希		
入選（以下五十音順）	赤川 裕実		
	岩政 銅輝		
	遠藤 優佳理		
	大西 浩史		
	行部 宗汰		
	神 早紀		
	田中 賢治郎		
	根岸 勝美		
	安井 隆之		
刀身彫の部	薫山賞	柳村 将之	
	寒山賞	柏木 幸治	
	努力賞一席	片山 重恒	
	努力賞二席	上林 勇二	
彫金の部	薫山賞	桑野 冬照	
	寒山賞	石井 瑛湖	
	優秀賞	川島 義之	
	努力賞一席	ブローデリック・ジェフ	
	努力賞二席	三角 恭兵	
	努力賞三席	柳川 清次	
	努力賞四席	マヌエル・コデン	
	入選一席	福興 裕毅	
	入選二席	中村 晋也	
	入選三席	三杉 具久	
	入選四席	世羅 毅	
	入選五席	武田 守夫	
	入選六席	太佐 誠治	
入選七席	伊集院 貴子		
白鞘の部	公益財団法人日本美術刀剣保存協会会長賞	久保 謙太郎	
	優秀賞一席	永洞 修	
	優秀賞二席	森井 敦央	
	優秀賞三席	河合 広明	
	努力賞一席	三倉 類太	
	努力賞二席	千葉 正義	
	入選一席	北村 一樹	
入選二席	千葉 俊和		
入選三席	柿沼 進一		
入選四席	平山 直弥		
入選五席	徹 久保 純一		
刀装の部	公益財団法人日本美術刀剣保存協会会長賞	伊藤 俊克	
	努力賞	片山 重恒	
	入選	片山 重恒	
柄前の部	公益財団法人日本美術刀剣保存協会会長賞	平山 直弥	
	優秀賞一席	マリヤナ・ヤコブレバ	
	優秀賞二席	松田 那由太	
	努力賞一席	出口 智之	
	努力賞二席	久保 謙太郎	
	努力賞三席	矢倉 聡一	
	努力賞四席	山田 真也	
	努力賞五席	藤田 康輝	
	入選一席	飯山 隆司	
	入選二席	大槻 良一	
	入選三席	田上 友唯	
	入選四席	加藤 禮詮	
	入選五席	河野 由佳	
	入選六席	細川 海暉	
	入選七席	中山 恒久	
	白銀の部	努力賞一席	上野 宏樹
		努力賞二席	三島 幹則
努力賞三席		三角 恭兵	
入選一席		トゥミ グレンデル・マーカン	
入選二席		柿沼 進一	
入選三席		前田 航汰	
入選四席		武藤 健	
入選五席		岡村 明日香	
入選六席		野田 芳孝	
入選七席		北川 優太	

鈴木莊一コレクションほか寄贈作品一覧

No.	指定	名称	寄贈者
1	○ 太刀	銘 国行(来) (附)黒蠟色鞘打刀拵	鈴木莊一氏
2	○ 剣	銘 光忠 (附)黒蠟色鞘合口剣拵 (附)下札	鈴木莊一氏
3	● 太刀	銘 国永 (附)金梨子地葵紋散鞘打刀拵 (附)正徳二年本阿弥光忠折紙	鈴木莊一氏
4	● 太刀	銘 正恒 (附)茶漆塗家紋散鞘打刀拵 (附)元禄五年本阿弥光忠折紙	鈴木莊一氏
5	● 刀	銘 津田越前守助広 延宝七年二月日 (附)黒蠟色鞘打刀拵	鈴木莊一氏
6	○ 短刀	銘 吉光(名物 鍋島藤四郎) (附)黒蠟色鞘合口短刀拵 小柄・筭 後藤光寿(花押) 目貫 無銘 光寿 (附)古鞘	鈴木莊一氏
7	○ 脇指	(朱銘) 行光(名物 大島行光) [本][阿](花押)(光室) (附)黒蠟色鞘合口脇指拵 (附)宝永元年本阿弥光忠折紙	鈴木莊一氏
8	○ 短刀	(朱銘) [正][宗](名物 芦屋正宗) [本][阿]([花押])(光常) (附)金沃懸地葵紋散鞘合口短刀拵 (附)古鞘 (附)葵紋短刀漆箱	鈴木莊一氏
9	■ 短刀	銘 国光(新藤五) 正和五〇十一月三日 (附)黒石目地桐紋散鞘合口短刀拵	鈴木莊一氏
10	■ 短刀	銘 備州長船住兼光(花押) 建武三年十月日 (附)金沃懸地葵紋散鞘合口短刀拵	鈴木莊一氏
11	■ 刀	銘 備前国住長船与三左衛門尉祐定作 天文二年二月日 (附)黒蠟色鞘打刀拵	鈴木莊一氏
12	■ 短刀	銘 清藤 (附)黒漆手綱刻鞘合口短刀拵	鈴木莊一氏
13	短刀	銘 源清宗 平成二年八月日	鈴木莊一氏
14	■ 黒潤曲文塗鞘脇指拵 (荒木東明一作金具)	銘 緑・小柄・鐔 銘 一斎東明(花押)	鈴木莊一氏
15	■ 桜皮塗鞘合口短刀拵 (孔叟寿良一作金具)	銘 緑 印銘(寿良) 目貫 割際端銘 寿・良 小柄 銘 寿良(花押) 筭 銘 孔叟	鈴木莊一氏
16	■ 黒蠟色塗鞘合口短刀拵 (三所物 後藤廉乗)	銘 小柄・筭 銘 後藤廉乗(花押) 目貫 無銘 廉乗	鈴木莊一氏
17	短刀	銘 備州長船周光 応永廿六年二月日	堀源太郎氏
18	刀	銘 大阪住人月山貞勝謹作(花押) 大正十五年三月吉日	木村東馬氏
19	● 刀	銘 備前国住長船与三左衛門尉祐定作 天文三年二月吉日	落合為一氏
20	● 短刀	(朱銘) 正宗(号 蜂須賀正宗)	戸田英子氏
21	脇指	銘 出羽入道法橋源光平	竹下博氏
22	○ 刀	(折返銘) 雲生	日本博英氏
23	短刀	銘 菊紋〔(葵紋崩し)〕 (附)古鞘入り木箱	中埜晶夫氏
24	笹穂槍	銘 法城寺越前守橋正照 貞享三年八月吉日	大久保洋吉氏
25	■ 刀	無銘 当麻	石田久義氏
26	脇指	銘 岩井鬼晋藤源正俊 奥陸大主所持之	石田久義氏
27	■ 刀	無銘 景政	石田久義氏
28	脇指	銘 重次(時代室町後期)	石田久義氏
29	○ 刀	無銘 伝来国行 (附)享保元年本阿弥光忠折紙	根津昭氏
30	■ 刀	無銘 保昌	根津昭氏
31	○ 太刀	銘 備前国長船住近景 嘉暦二年五月日	根津昭氏
32	太刀	無銘 伝栗田口	根津昭氏
33	■ 太刀	無銘 古伯耆貞綱	根津昭氏
34	● 太刀	銘 国村	池田広司氏
35	● 刀	無銘 伝義景	池田広司氏
36	■ 刀	銘 肥前国住藤原忠広 寛永十三年二月吉日	竹内孝男氏
37	■ 太刀	無銘 古備前吉包	井上福二氏
38	刀	銘 肥前国住人忠吉作	井上福二氏
39	■ 刀	銘 肥前国住陸奥守忠吉	竹ノ家代三郎氏
40	○ 脇指	銘 備中国住次直作 延文三年十二月日 (附)金梨子地鞘合口脇指拵	蟹江英吉氏
41	刀	銘 濃州関住兼定作	藤野在崇氏
42	短刀	銘 大慶直胤(花押) 天保〇年仲秋	藤野在崇氏
43	刀	銘 和泉守藤原国貞	福用一氏
44	■ 脇指	銘 相州住秋広 応安五 (附)梅花皮紋鞘脇指拵	個人
45	○ 脇指	銘 相模国住人広光 康安二年十月日	個人
46	刀	銘 相州住広正	佐藤純一氏
47	二行書軸	内田疎天	大正時代 ～昭和時代 河内國平氏
48	一行書軸	慈雲	江戸時代後期 朝倉万幸氏
49	■ 金梨子地桐紋時給鞘小き刀拵		江戸時代中期 高橋正法氏
50	■ 榎車之図鐔	銘 一成造	現代 成木一彦氏
51	■ 武鑑透象嵌 大小鐔	銘 俊行 平成三十年	現代(2018年) 玉岡俊行氏
52	■ 木蓮図二所	銘 筭 銘 美濃大垣住 如山(花押) 小柄 銘 平成成年 如山(花押)	現代(1994年) 古山葉月氏
53	■ 茄子図鐔	銘 平成二十二年 大垣住如山	現代(2010年) 古山葉月氏
54	■ 葛図鐔	銘 平成二十年 大垣住如山	現代(2008年) 古山葉月氏
55	■ 唐草図縁頭	銘 平成二十五年 義和	現代(2013年) 古山葉月氏
56	■ 鞘塗見本		明治時代 個人
57	■ 黒蠟色鉄線花家紋散鞘 絵刀筒		江戸時代 志塚徳行氏
58	■ 黒漆打刀拵		桃山時代 ～江戸時代初期 園平治氏

◎：重要文化財 ●：重要美術品 ○：特別重要刀剣 ■：重要刀剣・刀装・刀装具
※都合により展示物は変更する場合がございますので、ご了承ください。

イベント・レポート

刀剣博物館「受贈記念受け継がれる日本刀展―鈴木莊一コレクションを中心に―」

篤志により貴重な優品が鑑賞の機会を得て…

東京・両国の刀剣博物館で十月二十五日(土)～十二月二十一日(日)に「受贈記念受け継がれる日本刀展―鈴木莊一コレクションを中心に―」が開催された。

鈴木莊一氏より、重要文化財二口、重要美術品三口、特別重要刀剣三口、重要刀剣・刀装具七点を含む刀剣・刀装・刀装具十六点に及ぶ、質量ともにまれに見る作品が寄贈された。

鈴木氏はおよそ四十年にわたり日本刀や刀装・刀装具に情熱を注がれ、優れた作品を収集された。

この度、鈴木氏の「私蔵すべきでなく多くの方々に見ていただきたい」との高尚な意思から同館に寄贈された。

同展では受贈記念として鈴木氏の寄贈品と、同館が代々木から両国へ移転した二〇一七年以降に寄贈された作品が併せて展示された。内訳は、重要文化財三口、重要美術品七口、特別重要刀剣七口、重要刀剣・刀装具・刀装十六口を含む刀剣・刀装・刀装具・書軸・鞘塗見本・刀筒など五十八点である。ポスターに採用されているの

は、重要美術品に認定されている五条国永の貴重な在銘の太刀である。国永の在銘品は十指に満たず、本刀は藩政時代は宇和島藩伊達家に伝来し、本阿弥光忠折紙と金梨子地葵紋散鞘打刀拵が附帯する。

特筆すべきは、備前光忠の剣である。本作は(公財)日本美術刀剣保存協会の審査制度における最高位である特別重要刀剣に指定され、後に昭和四十九年に国の重要文化財の指定を受けている。これは同協会の審査基準の厳格さと鑑定精度の如実に示す好例と

言える。

余談ながら、ほかに古備前友成の太刀、元享二年紀を有する備前景光の太刀なども、特別重要刀剣から後に国の重要文化財に指定されている。

そのほか、享保名物である「鍋島藤四郎」「大島行光」「芦屋正宗」号「蜂須賀正宗」などが含まれている点も、今回の寄贈品の水準の高さを物語っている。なお、両国移転後の寄贈品として、刀剣商の池田田司・朝倉万幸・高橋正法の三氏からも別表の作品が寄贈されているのでご紹介しておきたい。(冥賀亮典)

同館では、館蔵品が展示室のガラスケース越しの展示のみではなく、鑑賞会や研修会など、多様な機会において積極的に採用されている。寄贈者の方々の中には、展示のみではなく、より有効な活用

の方法を希望されて同館を選択された方も多いためと推察される。本部の鑑賞会や全国大会、支部の鑑賞会においてこれらの名刀を手にとって鑑賞できる機会を今から楽しみにされている方も多いためではないだろうか。私もまた、これらの名品を鑑賞できる日を心待ちにしている一人である。



（公財）日本刀文化振興協会「日本刀の匠展」 明治神宮宝物殿にて現代刀職者の力作を披露

当協会は十月二十五日から十一月十六日まで、明治神宮宝物殿にて三年ぶりと成る「日本刀の匠展」を開催しました。

今回は第十五回「新作日本刀 研磨外装刀職技術展覧会」出品作品を中心に、村正・国広などの名刀や、後藤祐乘・横谷宗珉らの名品を追加展示し、多彩な魅力をご堪能いただきました。

会期中にはギャラリー・トークを実施し、刀鍛冶・研師をはじめ刀装具研究家の皆さまに解説をお願いしました。近年は海外からの来場者も増えており、今回は日本刀に精通した通訳を配置したことで大変好評を博しました。

第七十八回清磨会

清磨の命日に作品六振や一門の秀作を鑑賞

秋の暖かな日差しに包まれた十一月十四日は、江戸三作の一人に数えられ、四谷正宗とうたわれた幕末の名工山浦清磨の命日に当た

ります。今年も清磨会が四谷の宗福寺において開催され、四十名を超える方が出席されました。歴史ある清磨会は七十八回を数え、今年も刀剣の鑑賞会とその後の懇親会が開かれました。久しぶりに懐かしい方や遠方の方にもお会いすることができない方も多くいらっしゃいます。その中にはお若い方や女性の方もおられて、嬉しく思いました。



第78回清磨会に参列した皆さん

出品作品は、清磨が六振（大小一腰）と、一門の山浦真雄が一振、栗原信秀が三振、鈴木正雄が二振、齋

二十日間という限られた会期ながら、延べ四四〇〇名を超える皆さまにご来場いただき、明治天皇と日本刀との深い関わりについても理解を深めていただけたものと存じます。

また、令和四年十一月に明治神宮宝物殿にて奉納鍛錬が斎行され、その時に使用された玉鋼が三年の歳月を経て月山貞利刀匠の手により見事な綾杉肌の作品として完成し、十一月十一日に公益財団法人日本刀文化振興協会より明治神宮に奉納されました。

実に六十七年ぶりの刀剣奉納であり、この奉納刀は十二月二十日から三月八日まで開催されます



奉納刀特別内覧会で月山貞利刀匠（右端）の説明に聞き入る麻生太郎副総理（中央）と柳井俊二会長（右）

「明治神宮の刀剣展」で、明治神宮所蔵の御刀とともに明治神宮ミュージアムにて一般公開されます。ぜひご覧ください。

これまでアニメやゲームの世界

で広まった刀剣ブームですが、これを、実際に所有したくなる身近な美術品へとつなげる新たな潮流へ発展させるべく、今後も尽力してまいります。

岡山カルチャーゾーン四十周年記念三館連携展示「雲の旅」備前の名刀を追って

雲類を旅する…聖地備前で希少な展観を堪能する

岡山城と林原美術館、岡山県立博物館の三施設が連携して開催する展観「雲の旅」備前の名刀を追って十一月二十三日の日曜日に行ってきました。さすがの日曜日、行楽日和ということもあって、海外の旅行客を含めたくさんの方がそれぞれの施設にあふれていました。

今回が初めてという「雲類」に焦点を当てた展示。備前国に位置する宇甘郷を拠点としたことから、宇甘（鶴飼）派と言われ、雲生・雲次・雲重と「雲」の一字を通り名としたことから「雲類」とも呼ばれるようになりました。

山城国の来派や備前中国の青江派に由来が近いと言われており、今までは、備前長船派に押されたというか、独特の作風のために隠れていたというか、ここまで脚光を浴びることはなかったと思います。

まず岡山城へ向かうと、雲類と来派とが比較できるように並べられており、岡山県指定重要文化財はもとより、吉備津彦神社の蔵品、また個人よりお預かりした名刀がズバリ。

雲類の特徴のある反り姿、潤いのある板目に至目が混じった地



岡山城「雲類—異彩の備前刀」より

一階の古い土器が並ぶ古くからの名産の花ござの展示の一角に、今回の展示品が並んでいました。

岡山県立博物館所蔵の作品ばかり。さすが県博です。こちらは長船助長と畠田守家とが比較できる

雲類の等身大パネルにサイン色紙も並んでおり、数名の女性が嬉しそうに写真に収めていました。

残念なのが、期日が間に合わず見れなかった林原美術館での展示です。もし行けておれば、全二千五口に及ぶ全国初の「雲類」の全容を堪能できたのと思いを残しながら、久しぶりの岡山の旅を終えました。

見れば見るほど引き込まれる刀剣の世界…まだ見たことのない作品をこれからも探してみたいと思います。

（吉井唯夫）

Japan Art Fair (JAF) が開催された

去る六月十三日から十五日にかけて、オランダ・ユトレヒトで「Japan Art Fair (JAF)」が開催されました。

JAFは日本文化、中でも日本刀や武具を中心としたヨーロッパでは類を見ない展示即売会です。

ヨーロッパはもともと、日本・カナダ・オーストラリアなどから集まった出展者が自慢の品々を披露し、それを自当に世界各地から愛好家の皆さまが来場されます。

オランダで開く日本刀・武具の展示即売会

本イベントは、二〇一八年にイギリス人美術商のエディさん、日本の旗谷大輔さんが代表となり、オランダ人刀剣商のヘンクさんの地元オランダ・ユトレヒトで日本刀・武家文化に特化した「Japan Art Expo」として発足しました。

コロナ禍による中断を挟みながらも四回目の開催を迎えた今年、名称をJAFに改め、ヘンクさんと旗谷さんが主催する、より幅広い日本文化を扱う展示会として

再開を切りました。私も初回から毎回、参加させていた



各国の関係者との懇親風景

開催地ユトレヒトは、長崎ハウステンボスのモデルにもなった美しい街です。古都の町並みを眺めながら生牡蠣にたっぷりキャピアを添え、シャンパンを飲み、海外の仲間たちと親交を深めることも、今年も生きて良かったこと本心に思う楽しみであります。

（生野正）

ブック・レビュー BOOK REVIEW

『北越雪譜』板行に至る四十年と牧之の生涯

『雪夢往来』 木内昇／著 定価二二〇〇円(税込) 新潮社



「雪中に糸をなし、雪中に織り、雪水に洒ぎ、雪上に曬す。雪ありて縮あり。されば越後縮は雪と人と氣力相半して名産の名あり。魚沼郡の雪は縮の親といふべし」

本紙の校正の最中、くしくも『雪夢往来』が中山義秀賞を受賞、このニュースが飛び込んできた。

東京美術倶楽部「二十藝」京都2025

母と私の現代アートと一日

十一月十七日、東京美術倶楽部主催の「二十藝」京都2025に行ってきた。

来月五月に開催される東京美術倶楽部での「二十藝」のプレイベントということだ。文化の源の地である京都で、現代アートのイベント？ 月山貞伸・宮入陽西氏の刀剣展示もある。

これは面白そうだと、最近はずいぶん遠出が億劫になっている母を口説いて伺うことにした。

母は、美術業界に全く縁のない人だ。茶の湯数寄の父、刀剣業界に身を置く私。わからないことも、気を使うことも多かっただろう。



渉成園の庭園と茶室を望む

NEWS & TOPICS 研師・白木良彦さんが「現代の名工」に選ばれる

厚生労働省はこの度、令和七年度の「卓越した技能者」(通称「現代の名工」)について、表彰対象者一四二名を決定したが、斯界ではただ一人、研師で当組合賛助会員の白木良彦さんが栄に浴した。

功績の概要として「研磨により刀を修復し、美術品への昇華を行う作業に優れ、数多くの刀剣を手がける。現存する日本独自の鉄の伝統工芸品である日本刀の修復を行うとともに、現代の刀鍛冶の作品にも多く携わり、刀作りの技術保存にも貢献している。今までに弟子は四名あり、二名を独立させ、現在二名を育成している。また、各地で講演や実演を行い、日本刀の歴史や研磨など、日本刀製作に関わる職人として啓蒙活動を積極的に進めている」と紹介される。



白木さんは昭和三十一年に生ま

19折々 古都 うらうらの日 石井 理子 筆者は奈良県在住

明けましておめでとうございませす。本年もよろしくお願ひいたします。

今度も、こころで手が止まる。ネタがないのだ。...

いかけ彷徨っていたが、とうとうガックリと膝をついた。

なるさま ことにおかし 一訳「正月一日は、まして空の様子もうらうらと、珍しく霞が立ち込めた時に世の中の人々は皆が姿を特別に整え、主君も自分をも祝う様子は、格別に趣深くある。

「おかあさん、ワイン飲もうよ」「昼間からいいのかなあ」などと、かわいらしいことを言う。

「たまにはいいやん。赤？白？」大人の「おかあさんといっしょ」

出雲文化伝承館

〒693-0054 島根県出雲市浜町520 ☎0853-21-2460 https://www.izumo-zaidan.jp/izumodenshokan/

令和の御遷宮 須佐神社展

須佐神社は、出雲市佐田町に鎮座する式内社です。主祭神は須佐能袁命で、「出雲国風土記」によれば、自身の名からこの地を「須佐」と命名し、御霊を鎮めたとされる霊蹟であります。



本展では、令和の御遷宮を記念して、重要文化財の奉納刀「兵庫鎖太刀」をはじめとする須佐神社の宝物や美術作品を展示し、須佐神社と地域社会の文化や信仰のつながりや広がりをご紹介します。



正月一日は、まいて空のけしきもつらうらと、めづらうかすみこめたるに、世にありとある人はみなすがたかたうらうらと、つらうらひ 君をも我をもいなどし

美しい新年の衣裳をつくつて、年を始める清少納言の姿が眩しい。「少しは正月気分というものを味わってらんないか」

「少しは正月気分というものを味わってらんないか」

「少しは正月気分というものを味わってらんないか」

ブック・レビュー BOOK REVIEW

平易で便利な言葉は、実は難解で奥深い

『幕府』の発見―武家政権の常識を問う

関 幸彦 定価一八七〇円(税込) 講談社

頼朝、尊氏、家康はなぜ幕府を開き、信長や秀吉が幕府を開かなかったのはなぜか。幕府が開かれたのは一九二二年なのか、一八五五年なのか。こんな軽い感じの問いかけから本書は始まる。

頼朝、尊氏、家康はなぜ幕府を開き、信長や秀吉が幕府を開かなかったのはなぜか。幕府が開かれたのは一九二二年なのか、一八五五年なのか。こんな軽い感じの問いかけから本書は始まる。

歴史家田口卯吉(彼は「鎌倉政府」という言葉を使っていた)と帝国大学主導の国史学科の重野安綱らの考え方も違つし、そして西欧の騎士道と日本の武士道を重ね合わせた中田薫と、権力の委任論の牧健二の間では激しい論戦が展開されるに至り、また頼朝を天皇・貴族権力の否定者と見たかった石母田正の内面では、頼朝への期待と失望が交錯する。頼朝の行動や業績への評価も、評価する人間が生きた時代、価値観の影響を受けていることがわかる。

本書を読むと、武家の歴史の認識や評価が時代により異なっていたことがよくわかる。例えば江戸時代前期、財政が豊かで幕府が元氣だった頃の幕政を担った新井白石と、江戸後期、財政が悪化し問題山積の幕政時代を生きた頼山陽では、認識が全く異なる。



さらに明治時代以降は、在野の「幕府の発見」というタイトルには、武家政権の歴史を長年考察し、武士論について発信を続けてきた関氏の、これまでの研究生活が凝縮されているとも言えよう。関氏は日本中世史研究の著作を出しつつ、時間をかけて、このテーマを温めてきたに違いない。

NEWS & TOPICS

十六代家茂愛用の来国光脇指が徳川美術館で初公開

徳川美術館(名古屋)で昨年開催された企画展「尾張家臣団」で、十四代將軍徳川家茂が愛用したとされる「脇指 銘 来国光」が初公開され、大きな話題となった。

徳川宗家より譲り受けたもの。付属する徳川宗家の刀剣に関する史料には、文久二年(一八六二)二月に拵を新調し、さらに慶応二年(一八六六)五月には替拵が完成した旨の記録があり、今回確認された外装(写真)は替拵の記録と特徴が一致している。

これにより、家茂が日常的に指料として愛用していたことがうかがえる。

また、鞘書からは宝永元年(一七〇四)十二月五日、五代將軍綱吉が養嗣子綱豊(後の六代家宣)に贈ったものであることが判明した。



脇指 銘 来国光 附梨子地青貝亀甲文散脇指拵・桑木地菱紋付刀拵(個人蔵)

甲冑の話題

(公社)日本甲冑武具研究保存会

25

今回は、大鎧に付属する梅檀板・鳩尾板と、胴丸・腹巻に付属する杏葉について紹介します。

大鎧の、向かって左胸辺りに結ばれるのが梅檀板、対して右胸辺りに結ばれるのが鳩尾板です。

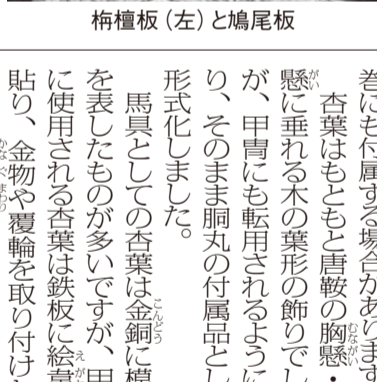
どちらも、板背面から伸びる下緒を肩先から胸板を繋ぐ高紐に結び付けます。大鎧の弱点である胸部や脇下に矢を射込まれないよう、防面面積を補うために付けられました。一説には、古墳時代に使用された頸鏡(首から胸部を守る、古墳時代から平安時代までの甲冑様式である掛甲の付属品)の名残とも言われています。

梅檀板・鳩尾板は大鎧に付属し、胴丸・腹巻や戦国期以降に流行する当世具足には原則として付きません。ただし、江戸時代の復古甲冑は、胴丸・腹巻にも付属する場合があります。

杏葉は胴丸(右脇が引き合わせになる甲冑で、室町時代以前の呼称では腹巻)に付属する板状の防具で、鎧の隙間を埋めるために用いられました。時代が下ると腹巻にも付属する場合があります。

杏葉はもともと唐鞍の胸懸・尻懸に垂れる木の葉形の飾りでしたが、甲冑にも転用されるようになり、そのまま胴丸の付属品として形式化しました。

馬具としての杏葉は金銅に模様を表したものが多くですが、甲冑に使用される杏葉は鉄板に絵草を貼り、金物や覆輪を取り付けた、甲冑の金具廻と呼ばれる部分と同一形状です。



梅檀板(左)と鳩尾板



杏葉

じ様式を持つものが一般的です。杏葉は当初、肩を護るための防具として用いられましたが、鎌倉時代末期以降に胴丸にも大鎧のように大袖が付属するようになると、肩先から伸びる高紐を覆うようになります。(浅野太一)

名称の疑義

網取譲一

俺は笹間良彦氏から甲冑の名前はまず、胴の素材を見るべし、と教わった。鉄(鐵)、次に漆の色を、黒漆塗り、そして札形状と威毛と全体形状を、切付札紺威二枚胴具足と。確かに古い「甲冑武具研究」の昭和時代のもを開くとそうしてある。笹間氏もお元氣だった時代のことだ。

現在、平成に残された書物を開いても鉄、革(草)などの素材を先頭に置く名称はかなり少なく思える。これは最初、神社仏閣の所蔵や奉納品で一般の手に触れることがままならぬ関係でそうなった、と思っていたが、いろいろ書籍を開くとどうやらそうではない。俺の認識が間違っていたのか? いろいろ本を開けば開くほど自信を失っていく。

さらに、こんなことがあった。数年前の「大刀剣市」のカタログ校正時に、写真で、練革とすべにわかる胴丸具足を出していた紀ノ国屋の佐孝社長に連絡し、頭に「練革」を置いてよいか確認したところ「当店としてはそれを望んでいない」と言われた。この時に気付くべきだったのかも知れない。

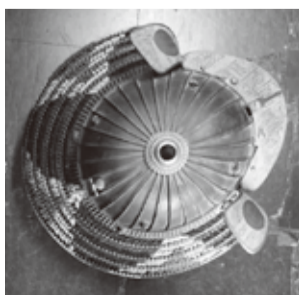
また、「本小札の場合、鉄革交ぜ、鉄、練革の順に愛好家のニーズと評価が下される、革と記すと評価が下がる」と言った商人もいたが、練革札作成の手間を考えると大きなクエスチョンではある。威の色を三色以上使う場合は色々威と言う(前号の甲冑会・浅野さんの記事参照)。では二色

ように結び付けられ、胴の胸に垂れる形が一般化しました。肩に杏葉を結んだ様子は「平治物語絵詞」など、鎌倉時代以前の様子を現した絵巻等にも見ることが出来ます。(浅野太一)

室町期によく見られるような鉄革交本小札黒革威胸紅(絲)胴丸がここにあったとする。

なぜ「威」の後に但し書き風に色の名前が付くんだと笹間氏に教わった時、叫びそうになった。それでも覚えなくては、と思いつランス料理のメニュー「真鯛のポワレ」のソース添えなんていうのがあるじゃないかと自分を無理に納得させた。現在これは守られておらず、合理的に黒革胸紅威だろう。

甲冑の名称一つでも時代に応じた柔軟さが必要なのか? じゃ、ついでにもう一つ、この胴丸に大袖が二枚付いていたとする。鉄革交本小札黒革威胸紅大袖二枚。そうだよ! 一番の問題は多分長いことなんだろう。



鉄三十間筋兜 鉄黒漆塗切付札沢威鞆付

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定 (株)城南堂古美術店 代表 田中 勝憲

〒153-10051 東京都目黒区上目黒四-3-1-10 TEL 03-3771-0167 FAX 03-3771-0167

催事情報

■備前長船刀剣博物館

〒701-4271 瀬戸内市長船町長船966 ☎0869-66-7767
https://www.city.setouchi.lg.jp/site/token/

テーマ展「海外と日本刀」

海外と日本の刀剣や火縄銃のほか、関連する資料約20点を展示するテーマ展を開催します。この展示では、日本刀と海外の武器に関わる文化や変化を広く紹介します。

日本刀は時代の移り変わりの中で形状を変化させるとともに、海外からの影響も受けてきました。例えば、蒙古襲来をきっかけにした形状の変化や、南蛮貿易で輸入された「南蛮鉄」を用いた作刀が挙げられます。また、日本が近代化化する中で、西洋の影響を受けて作られたサーベル式の拵などがあります。

本展では、日本刀が海外からの影響を受けて、その技術を取り込み、独自の発展を遂げた歴史を紹介するとともに、日本刀と海外の武器の役割について武器・宗教・伝来・美術といった観点からの展示も行います。

会期：令和7年12月6日(土)～8年1月18日(日)

■久能山東照宮博物館

〒422-8011 静岡市駿河区根古屋390 ☎054-237-2438
https://www.toshogu.or.jp/kt_museum/

新春企画展「久能山東照宮の名刀とその流れ」

御祭神・徳川家康公の愛刀であり、久能山東照宮第一の重宝である重要文化財「太刀 無銘 光世作（ソハヤノツルキ）」の展示に加え、令和6年度より開始した国宝・重要文化財の刀剣の白鞘新調事業のうち、令和6年度に白鞘の新調が行われた刀剣の中から重要文化財「太刀 銘 雲次」を、久能山東照宮博物館では作業終了後初めて展示します。

また、今回は「太刀 銘 雲次」に注目し、3代将軍家光公が当宮参拝の際に奉納したその太刀の魅力を伝えるほか、刀工「雲次」をより多くの皆さまに知っていただくべく、他所よりお借りした刀工・雲次作の刀剣を複数展示します。雲次という刀工はどのような作品を残した人物なのか、その点にもぜひご注目ください。

会期：令和7年12月26日(金)～8年3月1日(日)

■明治神宮ミュージアム

〒151-8557 東京都渋谷区代々木神園町1-1 ☎03-3379-5511（代表）
https://www.meijijingu.or.jp/

明治神宮の刀剣

本展は明治神宮に奉納された刀剣の中で特に優れた作品を一堂に公開する展示です。

わが国では、古代より刀剣を捧げることで祈りや感謝の意を神に捧げる神事が行われており、それは第11代垂仁天皇の御代に始まるのが『日本書紀』に記されています。明治神宮への刀剣奉納は特に昭和33年（1958）の御社殿復興の折に盛んに行われ、以後もさまざまな刀工による祈りの形として現代まで続いてきました。

近いところでは、令和4年（2022）に明治天皇百年祭を記念し宝物殿にて奉納鍛錬が行われ、この際に鍛錬された刀剣が奉納されています。

明治神宮創建から現代に至るまで、明治神宮へ奉納された刀剣を通し、形となった御祭神への感謝と祈りを感じていただければ幸いです。

会期：令和7年12月20日(土)～8年3月8日(日)

■刀剣博物館

〒130-0015 墨田区横網1-12-9 ☎03-6284-1000
https://www.touken.or.jp/museum/

第71回重要刀剣等新指定展

（公財）日本美術刀剣保存協会の審査事業は、日本刀の調査・保存を目的に昭和23年より行われています。

現在では真偽鑑定等を主目的とする基本の保存審査を第一義とし、より美術性の高い格付けを重視した審査として特別保存、さらには重要・特別重要といった段階を設け審査を行っております。その中において重要審査は作品の正真はもちろん、資料性や健全性も兼ね備えた完成度の高い美術工芸品として国認定の重要美術品に準ずる優作であることの指定であり、毎年欠かすことなく審査は継続され今日に至っております。

日本刀の高い品格と真摯なるくろがねの美を、そして刀装・刀装具に表れた工芸美の粋を心ゆくまで鑑賞ください。

会期：1月10日(土)～3月1日(日)

■アクトミュージアム 龍馬歴史館

〒781-5233 高知県香南市野市町大谷928-1 ☎0887-56-1501
https://www.actland.jp/museum/article/archives/1269

刀剣展示 2025

坂本龍馬の愛刀の作者としても知られる陸奥守吉行やその兄・吉国などの刀剣類13点、南海太郎朝尊の『新刀銘集録』など書物類8点、計21点を一堂に展示。刀の製造過程やその材料、特徴などもわかりやすく展示します。

会期：令和7年11月1日(土)～8年3月31日(火)



会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。現下の状況で入場制限や、観覧するには予約を必要とする場合もありますので、それぞれのホームページをご覧ください。

■名古屋刀剣博物館／名古屋刀剣ワールド

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-35-43
https://www.meihaku.jp/

特別展「三日月兼光と備前の名刀」

上杉家御手選三十五腰が1振、《三日月兼光（太刀 銘 備州長船兼光 延文五年六月日）》がアメリカから名古屋刀剣博物館へ。刀身に現れる湯走りがまるで三日月のように見える兼光の傑作とともに、備前伝の名刀を一堂に展示します。

会期：3月21日(土)～5月31日(日)

■春日大社国宝殿

〒630-8212 奈良市春日野町160 ☎0742-22-7788
https://www.kasugataisha.or.jp/

特別公開「刀剣の美を楽しむ—刀身の美・鞘の美—」

なぜ日本人は思いを込めた宝として刀剣を扱ってきたのでしょうか？

春日大社は、第一殿に武の神様としても崇敬される武甕槌命をお祀りしており、刀身にも多くの名品がありますが、鞘も当初のままで伝えられています。神様に捧げられた神宝として大切にお守りしてきたからです。

鞘の形式や装飾は刀剣の美を考える上でとても重要です。本展覧会では、刀身の美とともに鞘の美にも注目し、刀剣に込められた日本人の思いに注目しながら刀剣の美とは何なのかあらためて考え、一緒に刀剣の美を楽しみたいと思います。

会期：前期：令和7年12月20日(土)～8年2月23日(月)／後期：2月25日(水)～4月19日(日)

■三河武士のやかた家康館

〒444-0052 愛知県岡崎市康生町561-1 ☎0564-24-2204
https://okazaki-kanko.jp/okazaki-park/feature/ieyasukan/top

家康館企画展「幕末維新の刀剣 新々刀～再び響く槌の音～」

新々刀とは、江戸時代の安永期（1772～81）から明治9年（1876）の廃刀令までの約100年間に製作された日本刀を指します。元禄期（1688～1704）以降、平和な世の中が続き、日本刀の需要はほとんど失われていました。それが安永期になると、生活に困窮した者たちによる一揆や、尊王攘夷論の高まりなどによって、再び日本刀の需要が増え始めました。それに応えるべく、刀工たちは日本刀製作にいそしみ、鍛錬場には槌の音が響き渡りました。これが「新々刀」時代の幕開けと言えます。

このような騒然たる情勢の中で、水心子正秀らによって「復古新刀論」が唱えられ、鎌倉・南北朝など古刀期の名刀を模したのものや、古刀の上作物の良いところを手本とした日本刀が多く製作されました。また、江戸時代中期頃にはほとんど製作されなくなっていた太刀や短刀も、再び姿を見せるようになりました。

本展では、全国的に名が知られる刀工作から、地元の尾張・三河で製作された作品まで新々刀を一堂に展示します。幕末維新の動乱期において、再び隆盛を誇った日本刀の力強さに触れていただく機会になれば幸いです。

会期：1月31日(土)～4月12日(日)

■京都国立博物館

〒605-0931 京都市東山区茶屋町527 ☎075-525-2473
https://www.kyohaku.go.jp/jp/

特集展示「縁を結ぶかたな—国宝・重要文化財で学ぶ刀剣鑑賞—」

文化財や美術品との出会いにはさまざまな入り口があります。この展示では、京都国立博物館の収蔵する国宝・重要文化財の名品を通して、普段の生活では身近に感じることのできない「刀剣」分野の見どころを「形」「銘」「刃文」「刀身彫刻」の4つのテーマに沿ってご紹介します。

会期：2月4日(水)～3月22日(日)

■根津美術館

〒107-0062 港区南青山6-5-1 ☎03-3400-2536
https://www.nezu-muse.or.jp/

企画展「英姿颯爽—根津美術館の武器・武具」

根津美術館のコレクションの中で、武器・武具はちょっと特殊な存在です。実は初代根津嘉一郎は「刀はわからない」と公言しており、好んで収集していないからです。しかし明治42年（1909）に、実業家・光村利藻（みつむら としむ 1877～1955）の3,000点に及ぶ武器・武具コレクションを一括購入。優れた作品群の海外流出を危惧した英断は大規模な散逸を防ぎ、その体系的な収集の特性を守ることになりました。当時からは半減したものの、当館の武器・武具は現在も、ほぼ光村コレクションで形成され、いまだ往事の内容をよく伝えています。

本展覧会では、これら質の高い、洗練された武器・武具コレクションから選りすぐりをお楽しみいただきます。

会期：2月14日(土)～3月29日(日)



刀 劍 界

令和8年(2026) 謹賀新年 本年もよろしくお願ひ申し上げます

掲載は申し込み順です

株式会社 刀劍柴田
代表取締役 柴田 光隆
〒104-0061 東京都中央区銀座5-6-9
TEL 03-3573-1280
FAX 03-3573-1280
URL http://www.tokenshita.co.jp

つるぎの屋
冥賀 吉典也
冥賀 亮典也
東京都北区西ヶ原4-35-11
TEL 03-3576-1753
URL https://www.tsuruginoya.com/

武蔵国一の宮美術刀剣骨董品居合道古式銃専門店
有限会社 大宮 清水商会
代表取締役 清水 敏行
〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町3-17
TEL 048-644-3477
FAX 048-647-7434
URL http://www.surplusiepard.com/

刀劍販売買取各種工作
株式会社 コレクション情報
代表取締役社長 村上 和比子
岐阜県岐阜市西川手7-89
TEL 058-274-1960
FAX 058-273-1736
メール info@sanura-nippon.net

銀座誠友堂
千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館2階
TEL 03-3558-8001
URL http://www.seiyudo.com

刀 (株) 永和堂
代表取締役 朝倉 忠史
〒380-0836 長野市大字南長野南町1-136番地
TEL 026-2227-1000
FAX 026-2227-1578
URL http://www.yuwa.co.jp

株式会社 眞玄堂
高橋 歳夫
東京都千代田区鍛冶町1-7-17
TEL 03-3225-1784
FAX 03-3225-1144
メール info@samurai-gallery.com

刀劍・書画・骨董 株式会社 和敬堂
土肥 富康
新潟県長岡市相町1-12-16
TEL 0258-333-8510
FAX 0258-333-8511
URL http://www.wakeidou.com

株式会社 安東貿易
代表取締役 安東 孝恭
岡山県岡山市北区清輝橋2-1-132
TEL 086-1226-1251
URL http://www.kanana-ando.co.jp
刀劍チャンネル
→YouTube

日本刀販売買取 有限会社 葵美術
代表取締役 鶴田 一成
渋谷区代々木1-54-6
TEL 03-3375-5553
メール info@ajjapan.jp
URL http://www.ajjapan.jp

刀劍・新古美術品
株式会社 宝古堂美術
代表取締役 山田 雄一郎
東京都世田谷区上馬4-16-11
TEL 03-5548-6100
FAX 03-5543-0078

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂
代表 川島 貴敏
〒104-0061 東京都中央区銀座6-17-16 岩井ビル2階
TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367
メール taibundo@heihon.ne.jp
URL https://www.taibundo.com

銀座 盛光堂
齋藤 恒
東京都中央区銀座8-11-14 盛光堂ビル
TEL 03-3569-2251
URL https://www.ginzassikdo.com

服部美術店
東京都中央区日本橋3-5-12・2F
TEL 03-3327-4151
TEL 03-3327-4170

刀劍・小道具・鎧 刀劍杉田
代表 杉田 侑司
豊島区池袋2-49-15
TEL 03-3980-1461
FAX 03-3980-1463
メール info@token-net.com

柳晴雅堂 清水
代表取締役 清水 儀孝
〒111-0032 台東区浅草2-30-11
TEL/FAX 03-3842-1377
toukenyoshi1004@docomone.jp

有限会社 勝武堂
大平 岳子
東京都中野区本町4-145-10
TEL/FAX 03-3338-1130
メール info@shoubudou.co.jp
URL https://www.shoubudou.co.jp

刀劍美術 有限会社 静心堂
芦澤 一幸
〒272-0826 千葉県市川市真間2-1-26
TEL/FAX 047-321-1039

陽々 gallery youyou
モリーナ令
刀剣・武具・古美術
山梨県北杜市長坂町中丸1712-7
Tel. 0551-45-8113
www.galleryyouyou.com

株式会社 美術刀劍松本
代表取締役 松本 義行
〒134-0088 東京都江戸川区西葛西6-13-14 丸清ビル3F
TEL 03-6456-0877
FAX 03-6456-0889

古式銃砲、陸海軍武官軍刀文官儀礼刀専門店
株式会社 シカゴレジメンタルス
東京都台東区上野1-12-17
大阪府中央区瓦町1-5-14
TEL 03-5888-1123
メール chicago@regimentals.jp
URL http://www.regimentals.jp

御刀研磨処 楽屋
御刀研磨処 楽屋で検索
研師 平井 隆守
岐阜県関市小瀬976-11
ア・ドリム星が丘104
TEL 0575-251-0928
メール onkatana@do.dion.ne.jp

刀劍研師 白木 良彦
〒135-0045 東京都江東区古石場1-2-17
TEL 03-3643-3228

奈良県無形文化財保持者
(月山) 日本刀鍛錬道場・記念館
月山 貞利
〒633-0073 奈良県桜井市大字茅原228-18
TEL/FAX 0744-421-3230
URL http://gassan.info

(有) 飯田 高遠堂
代表取締役 飯田 慶雄
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-1331
URL http://www.iidakoendo.com

高吉 高島 吉童
代表 高島 吉童
東京都北区滝野川7-16-16
TEL 03-5339-4111
FAX 03-5339-4111
URL http://www.premico.jp

川越 (有) 優古堂
三浦 優子
埼玉県川越市新宿町1-9-13
TEL 049-249-0700
FAX 049-249-0702
yukodo@miror.ocn.ne.jp

日本刀研磨諸工作承ります
美術工芸武神
研師 黒田 充弘
〒514-0022 三重県津市愛宕町158
TEL 059-261-1982
https://www.mihono-togishi.com/

刀劍小道具
美術刀劍 前田
店主 前田 幸洋
〒577-0826 大阪府東大阪市大連北2-14-15
TEL 090-1962-1181
TEL 090-1962-1196

美術刀装具 石井
石井 理子
〒639-1216 奈良県葛城市八川149-19
TEL 090-6236-8042

大和美術刀劍
大西 康一
さいたま市南区大谷口5277
TEL 048-875-2122

匠の店 新堀美術刀劍
新堀 孝道
〒244-1002 横浜市中区本村町40-17
TEL 045-3364-2889
FAX 045-1520-1289
携帯 080-11354-0800
www.shimborikeninfo

銀座長州屋
深海 信彦
東京都中央区銀座3-10-4
TEL 03-3541-8371

(株) 日本刀劍
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-11
TEL 03-3434-4321
虎ノ門ビルA出口すぐ

福隆美術工芸
FORUM FINE ARTS AND CRAFTS
代表者 網取 譲一
東京都中央区八丁堀3-1-3 飯野ビル1階
TEL 03-6280-4987

もちだ美術
持田 具宏
さいたま市中央区上落合1-9-4
TEL 048-855-4792

赤荻 刀劍店
赤荻 稔
茨城県下妻市下妻乙172の5
TEL 0296-442643

美術刀劍小道具 武具類の売買、加工及び御相談承ります
大阪刀劍会
吉井 唯夫
大阪府中央区日本橋2-17-11
TEL 06-6663-1221
FAX 06-6664-1546

株式会社 山城屋
代表取締役 嶋田 伸夫
東京都豊島区巢鴨1-21-8
TEL 03-3942-2701

刀劍・武器・武具 刀劍はたや
籓谷 三男
〒194-0013 東京都町田市原町3-14-14
TEL 042-1729-2022
FAX 042-1721-6080
URL https://www.toukenhataya.jp

株式会社 丸英刀劍
〒869-1261 熊本県阿蘇市一の宮町宮地4375-11
TEL 090-13078-4044

札幌 横山美術
横山 忠司
〒060-0053 北海道札幌市中央区南三条東1-6
TEL 011-251-1765
FAX 011-251-1788

刀劍の店 玉山名史刀
玉山 祐司・真敏
岡山市北区田町1-1-1
TEL/FAX 086-1227-4188
URL http://www.t-touken.com

木村美術刀劍店
木村 義治
群馬県高崎市萩原町484-110
TEL 027-352-1159
FAX 027-352-1159

常陸美術
川口 博
〒311-3433 茨城県小美玉市高崎260-140-13
TEL 0299-11071
FAX 0299-11071
携帯 0299-11071
URL http://www.hatchibijutsu.net

虹雅堂美術舗
笠原 泰明
東京都品川区荏原2-17-13
TEL 03-3781-6582

ニシコーポレーション株式会社
代表取締役 西垣 皓司
〒136-0072 東京都江東区大島9-1-11
TEL 03-5585-9351
FAX 03-6626-0523